

令和5年度 第4回小牧市文化財保護審議会会議録

日 時：令和6年3月14日（木）午前10時30分

場 所：まなび創造館 5階 研修室

出席者：〔委 員〕 小野委員、池田委員、西川委員、藤堂委員、中嶋委員、村松委員、富嶋委員

〔事務局〕 中川教育長、伊藤教育部長、矢本教育部次長、武市文化財課長、長谷川文化財課長補佐兼文化財係長、浅野専門員、鈴木主事補、株式会社トータルメディア開発研究所 吉原氏

傍聴者：なし

【事務局（武市）】

定刻となりましたので、ただ今より令和5年度第4回小牧市文化財保護審議会を開催いたします。

皆様におかれましては、本日は大変お忙しい中ご参加いただきましてありがとうございます。

会を始める前に、ご報告いたします。本日、越川委員、増田委員より欠席のご連絡をいただいております。

また、議題となります（仮称）歴史民俗資料展示施設基本構想・基本計画の策定業務を受託しました、株式会社トータルメディア開発研究所より、吉原氏も同席しておりますので、よろしくお願ひします。

この会議は、小牧市審議会等の会議の公開に関する指針に基づき会議を公開としています。本日傍聴者はございません。

議事は音声録音し、議事録は発言内容、お名前とも小牧市のホームページにて公開しますので、ご承知おきください。

次に、会議資料の確認をいたします。あらかじめお送りいたしました次第、資料1、また本日追加の資料を机上に置かせていただきました。不足等がありましたらお申し出ください。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。次第の1として、教育部長の伊藤よりご挨拶申し上げます。

【伊藤教育部長】

本日は年度末でお忙しい中、第4回小牧市文化財保護審議会にご出席いただき、また、日ごろは、本市の文化財保護行政にご支援賜りますこと、改めてお礼を申し上げます。

本来ならば教育長の中川よりごあいさつ申し上げるところですが、他の公務により欠席のため、私よりごあいさつさせていただきます。

さて、本日の議題は、前回に引き続き「(仮称)歴史民俗資料展示施設基本構想・基本計画について」であります。

基本構想においては、検討中としておりました「管理運営方針」をお示しし、そのうえで、前回、ご確認いただいた「展示構成表」を踏まえて作成した2パターンのゾーニング・展示プラン等を基に、展示計画についての審議をお願いしております。なお、本日いただいたご意見を踏まえ、基本構想・基本計画として取りまとめ、公表していく予定です。

今後の予定としましては、令和6年度には、基本設計・実施設計、令和7年度に整備工事を行い、令和8年度のオープンを目指します。

限られた時間ではありますが、慎重審議、また皆様より忌憚のないご意見がいただければ幸いでございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

【事務局（武市）】

続きまして、小野会長よりご挨拶をいただきます。

【小野会長】

皆様おはようございます。今日は歴史民俗資料館の基本構想、それから基本計画について話し合いますけれども、わずか2年も経たない時間でしょうか、私たちが新しい施設が欲しいというようなことを言ってからすごいスピード感をもってここまで来て、本当にこれまでご苦労あったことと思いますけれども、感謝申し上げたいと思います。今日はギャラリーの方も視察いただきますので、いろいろな意見をいただければと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

【事務局（武市）】

ありがとうございます。

それでは、議事に移ります。

なお、事前にお送りいたしました開催通知文には、会議終了後に市民ギャラリーをご観察いただくこととしておりましたが、事務局からの説明後、会議の途中になります。

すがご移動いただき、現地で詳細な説明をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願ひします。

それでは、ここからの進行は小野会長にお願いします。よろしくお願ひします。

〈 議題 〉

【小野会長】

それでは、次第の2、議題に入ります。議題 「(仮称) 歴史民俗資料展示施設基本構想・基本計画について」事務局の説明を求めます。

【事務局(浅野)】

はい。それでは議題(仮称)歴史民俗資料展示施設基本構想・基本計画についてご説明いたします。

資料1-1、基本構想(案)をお願いします。

基本構想(案)につきましては、2月13日に開催しました第3回小牧市文化財保護審議会で「以下検討中」としておりました、管理運営方針についてご説明いたします。

10ページをお願いします。

(1) 管理運営形態では、「施設の面積や費用対効果の観点から、市直営を原則とする」と定めております。

(2) 人員配置では、「防犯・安全性やコスト面、展示内容・活動の充実、来館者サービス等、多方面から検討した結果」、無人ではなく有人での管理運営とすることを定めております。

(3) 入館料につきましては、小牧山歴史館やれきしるこまきの入場料が18歳以下無料であること、券売機などの設備費が必要であることなどから、より多くの方々に入場いただけるよう、無料といたしました。

(4) 開館時間・休館日につきましては、基本的にはラピオ4階の他施設と同様としつつ、費用対効果を鑑みて、開館時間の延長や短縮、休館日の追加を検討していくこととしました。

以上、2回にわたりご審議いただきました基本構想(案)を受けまして、基本計画(案)を策定いたしました。

資料1-2をお願いします。

1ページは基本構想のまとめ、2ページは「建築に関わる事項の整理」としまして、関連法規等の整理、設備仕様の整理を行っております。

3ページをお願いします。

(仮称)歴史民俗資料展示施設の設置場所がラピオビルの4階にあるということで、そこに至る導線を設定しております。

主導線として、建物中央にあるエスカレーターから下の図にあります1アプローチゾーンを通り、展示施設の外壁まわりに設置予定の歴史年表を見てから施設内に入る導線、副導線として、ラピオビル東側、図の一番下にあるエレベーターから展示室外周に合流し、展示施設内に入る導線を設定しております。なお、エレベーターからの副導線は、車椅子の導線も兼ねるものとしております。

4ページをお願いします。

前回ご審議いただきました展示構成(案)に、ご意見をいただきました、小牧の文化財や小牧の新田開発などを紹介するといった項目を追加しております。

5ページからが、「展示テーマとゾーニング及び動線の検討」であります。

5ページにはAプランとして「体感を重視～各時代毎に空間を区切り、その時代の世界観を演出し「スゴイ」を強調～」、6ページにはBプランとして「実物資料を中心に、各時代展示を周囲に展開～実物資料を1箇所に集め資料をじっくり見られると同時に、時代の解説と行き来できる仕組み～」を展示の基本的な流れとし、それとともにゾーニングと動線をそれぞれお示ししています。

具体的な違いとしましては、Aプランは、現在市民ギャラリーにある間仕切りの壁を極力活用し、展示構成で定めた「古墳」「大山廃寺跡／篠岡古窯跡群」「宿場町」の各時代を各部屋ごとに展示することで、それぞれの時代の世界観を作り、その時代の特徴を体感できるようにしたもの、Bプランにつきましては、間仕切りの壁を撤去し、壁面に各時代の解説を展示し、中央に出土遺物を中心とした展示物を集約したものです。ある程度時代を追いながら、実物大模型や解説、出土遺物を、来館者の興味・関心に合わせて自由に見ることができる仕組みとなっています。

以上のプランを平面図化またイメージパース化したものが7～10ページとなります。

11ページをお願いします。

来館者に歴史を分かりやすく伝える手法としては、デジタル技術や映像、模型などがあります。これらの展示手法のイメージ、展示手法の基本的な考え方を以下に示しています。

具体的にどういった展示にどのような手法を用いて伝えるかは、次年度の基本設計で検討・決定していくこととなります。

最後に14ページをお願いします。

冒頭の教育部長のあいさつにもありました、今後の事業スケジュールとしましては、今年度策定する基本構想・基本計画を基に、令和6年度に基本設計、実施設計を行い、令和7年度の展示製作を経て令和8年度に開館する予定であります。

展示製作にかかる概算工事費につきましては、今回ご説明しました展示プランが概ね固まり次第、算定していく予定です。説明は以上となります。

【事務局（武市）】

それではここで、市民ギャラリーへ移動したいと思います。本日追加でお配りしました資料をお持ちください。会場は施錠しますが、貴重品は各自で管理をお願いします。それでは移動をお願いします。

（暫時市民ギャラリーへ移動し現地説明）

【小野会長】

今、見てきまして、これから質疑に入りたいと思います。

今見学されて何か、ご意見等ございますでしょうか。

今説明を、A案、それからB案とあって、今ここで直ちに決めるというものではないですけれども、ご意見出ましたら、それを今後に反映していきたいということですので、ぜひご意見いただければと思います。

お願いします。

【池田委員】

どちらの案がいいかという話でいいですか。

【小野会長】

いいですよ。

【池田委員】

A案とB案があるんですけども、やっぱりA案だと、本当に壁が圧迫感があって、展示も分散してしまうので、この案よりも、B案の広がりが見える案にして、

わあこんなにあるんだというイメージがつかめるといいなという気がしましたので、B案がいいかなと思います。

【小野会長】

ほか、いかがですか。

【藤堂委員】

さつき、中嶋さんと村松さんが言つとつた。

【中嶋委員】

言ってたのは、B案だと古墳の再現のスペースが足りないから、私はB案のほうがいいと思うんですけれども、復元の方法をもうちょっと考えないかんなど。このペースのままではできない、長さが足りないかなと。だから、壁に平行するような格好でもいいのかもしれません。

古墳の復元をするなら、三ツ山古墳群か岩屋古墳だろうなと思うけれども、迫力があるというのは岩屋古墳。石棺はばらばらになっていたけれども、石棺まで復元して、そこは想像で作ると、かなりの。横穴式石室がかなり立派なので、おもしろいかな。

でも、現地へ行けば見られるしなというのもあるし。

【池田委員】

半分見せたら。半分見せて、あと残りは現地で。

【中嶋委員】

半分でもいいかもしれませんね。真ん中からこっち側だけとか。

【池田委員】

そうそう、そうそう。

【中嶋委員】

ちょっと工夫がまだ必要かなと。

古窯跡群もそうですけれども、やっぱり本来は6～7mあるものなので、それをどういうふうに。輪切りで見せちゃうという手もあるだろうし、壁にがーっと張つ

ていくという手もあるだろうし、ちょっと工夫が必要かなということは思いますが、
基本的にはB案がいいかなと私は思いました。

【藤堂委員】

大山廃寺は。

【中嶋委員】

大山廃寺は、復元は、屋根の要するに瓦ですね。瓦を、本来こんな形で屋根がありましたよというのを見せるんだと思うんだけれども、これはこれでこんな感じかなと。

【藤堂委員】

そうですか。

【中嶋委員】

はい。

古代瓦のこんなぶつといのが、がつとくるというのは、これは、見るだけでもわ
一とと思います。普通の民家の瓦を想像しているのとは全然違う。実物大で瓦が組
まれれば、迫力はあるかなと思います。

【池田委員】

倉庫みたいなのがあるでしょ。この前掃除をした倉庫。

【藤堂委員】

あそこ。

【池田委員】

あそこにあるものも、出せたら出したいと思う。

【藤堂委員】

そうだね。はい。貴重なものがいっぱいありますので。

【小野会長】

倉庫の中、いっぱいありましたよね。

【池田委員】

倉庫にいっぱいありますよね、あの倉庫。

【藤堂委員】

ただ、この中には入れないです。

【小野会長】

入れないね。

【藤堂委員】

周りとか、余分なところにはいいけど。

【中嶋委員】

先ほど見た外のスペース、ああいうところで季節的にというか。

【藤堂委員】

この中で入れるとしたら宿場ですけれども。宿場のスペースはそうないし、宿場の賑わいというのをどういうふうに表すか、むちゃくちゃ難しいと思うんですよね。

【小野会長】

さっき見たら、周りのスペース、すごい広いのがあったから、あそこだったら結構大型のものでも、夏休み企画で出してというのもありな気がしますね。

【藤堂委員】

いろんなところの宿場に行くと、ミニチュアで宿場を作っていますよね。ミニチュアというんですか。

【小野会長】

ああ、多いですよね。人形。小さい賑わいをね。

【藤堂委員】

ただ、そういうのが小牧で作れるかということですね。

【中嶋委員】

作れると思うけれども、高いです。

【藤堂委員】

金かかるよね。金に糸目をつけなければ、ミニチュアが。それがないと、宿場つて表すのが難しいよ。

ただ、この前、イシカワ先生と文教大の内田という先生としゃべっておった。そうしたら、内田さんが、宿場のバーチャルを作ると言っていた。

そういうもの、バーチャルって。

【西川委員】

いやあ、実際は難しいと思うよ。

というのは、最近はゴーグルをつけてやると江戸時代の宿場町のあれを再現するというけれども、それはやっぱり外注でないとできないし、むちゃくちゃ金がかかるんだよね。

【藤堂委員】

ああ、そうか。

【西川委員】

これは、小牧は最近は外注ばっかりでしょ。だから、より専門的に、よいものはできると思う。

だけど、例えば大口のあそこも同じように、文化会館の4階ぐらいのところに細長く作っているけれども、あれは自前で、市が工夫してやったものだから、素的だけれども、一応歴史民俗資料館的な雰囲気はある。春日井は、教育センターがあるところに部屋を適当に使ってやってて、専門に、ここが資料館だという雰囲気はそんなにないんだ。やっぱりあれも市が、職員が工夫してやっているけれども、一貫性は全然ないんだわね。

そういうのが多い中、今回のこれはきちんと、防犯的なものとかいろんなことを考えながらプロが企画するから、それは、この辺ではいいものができると思うんだけども。

ただ、今まで歴史館の2階で展示してきて、いろんな文化財的な資料をやっぱり上手に展示しないと、いろんな、量がすごく多いと思うんだよね。だから、さっき、こんな工夫がとか、いろいろ意見はあったんだけれども、やっぱりある程度小牧の歴史が網羅できるような常設的なものにとりあえずは作って、あとは、それをやるというのはこれから考え方でやっていけばいいと思うから。

例えば、多目的教室を使って何か特別な企画を展示したりいろいろやるというのは、それはまたこれからやれるから、まずは、どういうものを完成させるかという点で、歴史館からここは、小牧の歴史のことがなくなっちゃうんじゃないかと心配したけれども、それを今回、今度はギャラリーを使って再現させるんだという点で何とかできるんじゃないかと思う。

年表的なものというのは、外側。

【小野会長】

外側です。

【西川委員】

外側に作る。

【小野会長】

ぐるっと外側ですよね。

【西川委員】

それは歴史館でもあったんだけれども、歴史館は、僕は戦国に特化する形でどうかなと思ったけれども、1階にちゃんとパネルで歴史的なものはずーっと流れを全時代一応説明してあって。

ただ、これはパネルだけだから、物はないよ。その物はないのをここでカバーするという形で。

だから、戦国の主だったことについては、詳しくは歴史館になっちゃうけれども、ここへ来れば小牧の歴史があらかた総括できるような、そういう施設にしたらいいかなと思うんだけれども。

【藤堂委員】

先生、教えてください。

プロジェクトマッピングは具体的にどういうものですか。

【池田委員】

例えば映写機で1個ずつ映すじゃないですか。あれが勝手にずんずんどんどん変わってくるでしょ画面が。だから小牧の賑わいも、天井から吊ってこうやって映して、小牧がこんなふうに賑わっているとか、そういうふうに作るんです。

多分、実物の実写はできないから、漫画とかイラストで作っていかなきやしようがないと思うんですよね。江戸時代の服装をみんなにさせるとお金がすごくかかるじゃない。それだけで費用がすごくかかっちゃうから。でも、実際にやりたいという人が出てくるかもしれないけれども。だから、そうやって壁面に映すということをどんどんしてもらって。

これも、前も、あそこの歴史館のときも、それをやつたらと言つたけれども、歴史館の人は全然反応せずに。

だから、あそこにあるあれを置いて、ばんばん映していくだけだから。あれさえ天井につければ。つけるだけの荷重が可だったら。

こここの宿場町ばかりじゃなくて、例えば古窯でも大山廃寺でも、その風景さえ撮っちゃえば映し込めて、何度も見られるようになるので、そういうのをもう少し使ってやらないと、今の子たちはとにかく目からのあれしかこないので、そういうことをやってもらえばいいと思います。

【藤堂委員】

西川先生言ってたよ。入り口の様子から具体的にって。

【池田委員】

私、あそこのおもしろいなと思ったのは、例の岸田家の、いわゆるおたなってどういうものかっていうの。

おたなって何だとか分からぬでしょ、あれ、扉をがーっと全部上がっちゃって店になるわけですよ。ああいうこととか、実際に分からぬでしょ。昔からお店というのは、日本の、横に引いてそこにあるかと思うと、違うの。がつと開けて、それで店になっていくという。

そういうこととか、せつかくあるんだけれども、岸田家だって、あれ、上げられないもんね絶対に。

【事務局（浅野）】

上げられないですね。

【池田委員】

ですよね。だから、そういうのはもう分からぬ。

【中嶋委員】

もっと新しい時代に改造されているんじやないですかね、前の部分が。

【池田委員】

一回見せてもらったよね。

それ以降なくなっちゃったから。

【中嶋委員】

格子戸があれば、上がらないですよね。

【池田委員】

だから、ああいうのを、このようにしますよという資料をちょっと見せてあげるとか。

屋根神様だって。ここはうだつはない。屋根神ですよね。資料としてこういうのがあるみたいなものを持っていけば。

狭いんだけども、そういうもので工夫しないと新しさは出てこない。どんどんやってください。

【中嶋委員】

いいですか。

【小野会長】

はい、どうぞ。

【中嶋委員】

外側で年表というのがあるんですけども、プロジェクトマッピングは無理

にしても、イラスト的なものを多用してこういう仕様を考えると、何とか回せるかなと思うんですね。

例えば宿場町の賑わいだったら、そんなイラスト的なものを外に貼るとか、そういうこともできると思うし、いろんな足りない部分をどんどん外へ持っていくということは考えたほうがいいんじゃないかな。このスペースでやれることを。

【小野会長】

これだけありますから、相当。

【中嶋委員】

さつき、一周してみたんですよ。膨大な量です。歩くだけでも疲れる。これだけの距離を文字を見て歩くのは無理、これだけの距離。だから、絵とか写真とかいうもので埋めないと、とても無理かなと思いました。

【池田委員】

足跡みたいなものがあって、こっちの方向へ進むのよみたいな案内があると。逆に回ったら分からない。

【小野会長】

壁も相当広いので、活用できるので。今おっしゃったように文字だけでは疲れちゃうけれども、写真がいっぱいあれば、じっくり理解も深まるし、子供も分かるし。文化財指定になっているものの絵をいっぱい入れていったらいいんじゃないですかね。

【池田委員】

そうですね。

写真は撮ってもいいでしょ。これが小牧市の文化財指定。

【小野会長】

基本的に、これ写真だし、撮ったっていいんじゃないですか。写真は別にパネルのところを撮ったって、それは。

個人資料だって、そんな、駄目というものはないじゃないですか。

【藤堂委員】

小牧宿にしたって、江戸時代250年の歴史があって、初期の小牧宿と後期の小牧宿は全然違うんですよね。だから、そういうのを池田先生が言った映像で流せるといいなと思いますよね。

だから、ある江戸時代の1点を取ることでは流れが分からぬと思う。

もう1つ、皆さんのお意見でB案がいいと。僕もB案がいいかなと思うんですけれども、B案にスタッフルームというのがあるのがいいなと思いますね。スタッフルームは絶対必要ですよ。もしここに管理で常駐の人員を配置することなら、ぜひないと。こういうところがないと、常駐できないような気がします。

この基本方針はとってもいいと思いましたので、ぜひ堅持してほしい。特に市直営でやると。それと人員を配置する。池田先生も、学芸員と言われましたけれども、そういう専門の人を、どういう形であれ、何とか配置することが必須だと思います。人員は最低2人要るよね、こういうのをやろうと思うと。1人ではね。

【池田委員】

1人はここのスタッフで、もう1人は。

【藤堂委員】

誰かね。ボランティアでいいですけれども。

【池田委員】

ボランティアでもいいし、何でも、常駐じゃない。

【藤堂委員】

最低限ね。

【池田委員】

そうそう。

【藤堂委員】

そういう態勢を取らないかん。

そういう人が必ず必要。

【中嶋委員】

今小牧市が置かれているいろんな事業を考えたら、学芸員をここに配置するって、学芸員が配置できるんだったら、ほかに投入すべきだと思うんです。小牧山だってあるし、それ以外のものもあるし。ここはちょっと無理だと思う。

【池田委員】

小牧山の歴史館のことですよね。

【中嶋委員】

いや、歴史館じゃないです。

【池田委員】

小牧山そのもの。

【中嶋委員】

小牧山は、発掘して整備していくということを繰り返してやっています。スタッフは大分充実してきましたけれども、まだまだ足りない。

【藤堂委員】

そうですね。

【中嶋委員】

僕なんかが思うと、ここに学芸員を配置するのは、文化財課、小牧山課に置いてよと言いたくなってしまいます。

【池田委員】

文化財課に置いておいて、その人の派遣で変だけど。いつもじゃなくて、そういうふうにしたらいいんじゃない、1人置いておくというのは。

【藤堂委員】

常駐じゃなくて。

【中嶋委員】

常駐は、ここには多分ちょっと無理だと思う。

【池田委員】

だから、誰かとチェンジしながら。

【中嶋委員】

例えはここの展示は誰かがやるということに担当はするとしても、その人がここに常駐するということは、費用対効果とかいろんなことを考えると、ちょっと無理じゃないかな。だから、企画はする人が。

【池田委員】

あと、さっきの学芸員の話ですけれども、歴史館の下のれきしるも、たしか市民文化財団が何かやってて、本当はそこに学芸員も入れてくれるはずなんだけれども、今入れていないですよね。

【小野会長】

でも、学芸員資格……。

【事務局（武市）】

そうですね。

【池田委員】

今入れていないから、あれはここに向かって言うんじゃなくて、市民文化財団のほうに向かって、ここにはどうして今学芸員がいないのかというのを市が問わなきやいけない。ここの管理者を選ぶときに。

【小野会長】

文化財団に応募する資格って、たしか学芸員の資格とかってなかつたでした。

【事務局（武市）】

ないですね。採用する職種にもよると思うんですけども。

【小野会長】

じゃあ、学芸員の資格がないんですか。

【事務局（武市）】

もちろん持っている方もいますけれども、スタッフ全員が持っているわけではないです。特に考古学に関しては、考古学に明るい学芸員の方というのをいらっしゃらないのが実情です。

【池田委員】

あっちに向かって言わなきやいけない。

【藤堂委員】

れきしるにはいない。

【池田委員】

いない、いない、いない、いない。最初にいただけで。

【藤堂委員】

本当。

【池田委員】

すぐドローンしちゃった。

【藤堂委員】

あつ、そうなの。いないの。

【池田委員】

ちゃんと採ったんだよ。あそこ、採用したの。試験までやって採用したのに、ドローンしちゃった。どうしているか知らないけど。

【藤堂委員】

知らなかつた。そうか。ああ。

じゃあ、中嶋先生が、ぜひ。さっき僕が言つとつたように市の文化財課の若手にぜひ担当してもらって。

【池田委員】

資格を持っている人を採ればいいんだもんね。

【藤堂委員】

資格持っている人、おるじやん。

【池田委員】

いっぱいいるじゃない。担当してもらえ。

【藤堂委員】

担当してもらって、あとはここはボランティアだな。

【池田委員】

ボランティアとか何とかで。何ていうの、パートタイマーみたいな形で雇って。

【藤堂委員】

やっていきましょう。

もう1つは、無料はぜひお願いします。金、100円でも取ったら大変だと思うよ。

【池田委員】

管理がね。

【藤堂委員】

うん、管理が大変。

人が金を取らないかんでしょ。だから、100円取ったって、そんなものはした金。それより人件費のほうがかかると思う。だから、無料はぜひ。市が何と言つても、文化財課として無料にしましょう。お願いします。ここで頑張ってください。

【小野会長】

まあ無料がいいですよね。100円でも取ると、来るものも来なくなりますよね。

【藤堂委員】

もう1点、池田先生言われたリピーターが来るような企画が将来的には必要なので、それはやっぱり企画力が大事だと思いますね。

前年度宿場展やったときに、どういう人が来るかといったら、暇なお年寄りばかりでした。お年寄りはすごく熱心に見てくれるんだけども、さっきの話で、老人ばかりを対象にしているわけじゃないです。あそことぜひ親子で来てほしいとか、子供が来てほしいとか、そういう希望がある。

親子で来てくれるとしても雰囲気がいいし、やっぱり子供は興味を持つていろいろやるので、親子がぜひ来てくれると。ここはいいよね。来たら、遊ぶところがいっぱいあるから。そういう子供たちがぜひ来てくれるという、それをしましょう。そのためには、先生がさっきから何回も言っておられるように、体験が必要です。常時何か体験する。そして、いろんな子供が興味を持って遊べるような工夫も必要だということ。そういうことをこれからやっていく。

【中嶋委員】

それも大切なことだと思いますが、手っ取り早くとにかくここで講座をやります、歴史講座。その人たちが必ずそっちへ回るような工夫をする。

あさひホール、いっぱいになるんですよね。いっぱいになるし、例えば市民美術展なんかは毎月ものすごい人が、駐車場がいっぱいになるぐらい人が来ているわけですよ。まず、そういう人たちが必ず行つてもらうようにいろいろ工夫をされたほうが。

特に歴史講座なんかの人は必ず、見れば絶対に。そう思いますよね。

【藤堂委員】

はい。一声言えばいいんだ。

【小野会長】

そういうことですよね。アナウンスしていくということですよね。

【中嶋委員】

その辺は、やればかなり行くと思います。

【池田委員】

ここの中の歴史講座。

【藤堂委員】

歴史講座といつても、年に数えるほどしかないから。

【池田委員】

4。でも、ここの講座でそういう歴史ものってあるでしょ。

【中嶋委員】

文教さんが委託を受けてやっていますよね。

【藤堂委員】

やっている、やっている。

やっているんですけども、いつもいつもやっているわけじゃないから。

【池田委員】

それは文教大学でしょ。

【藤堂委員】

そうです。

【池田委員】

そうじゃなくて、高校でやっている講座の中に歴史ものってあるはず。

【事務局（武市）】

ここで企画しているものはあまりなくて、文化財団さんがここを会場にというのもあまりなくて、やっぱり文教大学さんで年8回、歴史講座をやっていますので、うちから委託させていただいて。

【西川委員】

あとは、各センターで企画してやってて。会場がここになるということも時にはあると思うけれども、だけど、各施設ごとだね。

【事務局（武市）】

そうですね。

【池田委員】

カルチャーセンターみたいなのやっていたじやん。ああいうの、なくなつたんですね。

【藤堂委員】

それはいっぱいありますよ。絵を描いたり。

【事務局（武市）】

財団さんで、こまなびとかいろんな文化事業を企画されて、会場の一つとして、たまにはここも使うこともあるというような使われ方です。

【池田委員】

でも、連続4回講座とか。そういうのはありますよね。

【事務局（武市）】

あります。

【中嶋委員】

その辺はおいしいところですから、ぜひ確保しようと。

【藤堂委員】

はい。

【中嶋委員】

もともと意識のある人たちが来ているわけだから、必ず見ていってくれると思うんですね。

【池田委員】

でも、それを見せるところ、例えば平安、鎌倉ないもんね。しようがない。

【藤堂委員】

あんな狭い部屋だから、しようがないよ。

【小野会長】

年表ですよね。年表で全体を。

【池田委員】

外側だったら、いつも見られるじゃないですか。

【小野会長】

どうぞお願いします。

【富嶋委員】

子供がぞろぞろ見学にやってきて、学校でやってきてとか、近くの学校の子たち、クラスの子たちがぞろぞろやってきたということを考えると、どうあっても、Bがいいなと思います。

それから、内容的には中学校の内容かなとは思います。それはとてもいいと思います。小学校、中学校で、社会科の副読本を作っておりますけれども、社会科副読本、中学校の歴史編で、一応通史は記述するんですけれども、どうしてもトピックしてくるんです。そのトピックの内容が、今の現行の副読本だと、小木古墳群をやって、大山廃寺、篠岡古窯、平安末とか鎌倉は飛ばして、小牧・長久手の合戦で、江戸時代の城下町という形で歴史を扱っているところがあるので、それを考えると、本当にどんぴしやだと思うんです。

だから、今どこまでやっているか分からないですけれども、メナードへ行って何かやってこいということが、これだと可能になります。中学生に、1～2年生あたりに夏休み中に行ってきてレポートを書けということが可能になるし、それでこまくるなんか使っていろいろ自由にできることとくっつけてやればお客様は増えますし、興味・関心を持つ子も増えると思うので、内容的にもすごくいいと思っています。

ただ、小学生には難しいかなという部分はどうしてもあるし、展示構成で、入鹿六人衆、小牧のはずれとか一応入ってきてはいますけれども、小学生だと、3年生でそれこそ昔の暮らしを学びながら民俗資料に触れるという内容になるし、4年生で入鹿六人衆みたいな形で触れていく。5年生を飛ばして、6年生で歴史を扱うと

いう格好になるので、若干難しいところにはなるとは思われるの、そういうところを、ほかのスペースを使ったり、企画展をちょっとやってみたり。ちょっと難しそうですけれども、一番いいのは真ん中のケースを入れ替えるのが一番いいかなとも思うんですけども、周囲も使いながら、時には古い民具を並べてみたりとかいうようなことをやれば、小学生でも十分興味・関心を持てるところになると思うので、そういう工夫をしていただければ、学校でも十分活用できる。将来の人が育つかもしれないという格好になると思いますので、よろしくお願ひします。

【小野会長】

ありがとうございました。

【池田委員】

倉庫に入っている民具はぜひここで出てきてもらって。

【小野会長】

今ご意見出ましたように、小学生とか中学生なんかが利用してくれるようになると、また活気が出てきて、いいと思いますし、また、例えば中学生が夏休みに訪れるような場所になっていくのであれば、それに合わせたイベントだとか。あるいはここの一端は変えられるとかいう形で対応していい形が。最初、いきなりはまた読めないところがあるんですけども、少しずつ状況に合わせて変えていけたらいいのかなと思いました。

皆さんのご意見をいろいろ聞きましたら、Aプラン、Bプランということで、いろいろ、Bプランのほうが意見がたくさん出たところです。今回、そこまではっきり決めるということではないということでしたけれども、Aプランを最初に見たときに、部屋に行くと天井も低いし、ここの中に入していくのが楽しみもあるのは確かに事実だなというのを思って。あと、壁が増えるんですよね。壁が増える分、壁を使っていろいろ見せられるのかなというプラス面も実はあった。

ただ、子供たちがこの中に来て楽しみながら見るというときには、やっぱりBプランの見通せるほうがかなりよい面があつて。

今、時代の流れとして、壁を取って見せていくというのが増えてきているということで、未来を見据えるならというところで、多分、先生たちはBプランの意見が非常に多く出たのかなと思います。

いろんな意見が出ましたので、今後、参考にしていただければと思います。

それでは、質疑はこのあたりでよろしいでしょうか。

時間も押しておりますので、最後、次第の3、その他にいきたいと思います。

事務局から何かございますでしょうか。

【事務局】

本日机上に置かせていただきましたが、チラシ1枚、マメナシ観察会というものを3月30日に開催いたします。

10時から11時45分までということで、講師を、今日はお休みですが、名古屋工業大学の増田先生と学生さんにお願いいたしましたので、お時間ございましたら、ぜひご参集いただければと思います。

現地に駐車場がございませんので、愛知文教大学さんにご協力いただきまして駐車場をお借りしましたので、そちらに止めて歩くことになりますが、ぜひお越しいただきたいと思います。

ご案内です。以上です。

【小野会長】

委員の先生方から何か、報告、連絡ございますでしょうか。

よろしいですか。

それでは、本日の議題の審議が終了しましたので、進行を事務局へお返しいたします。

【事務局（武市）】

会長、委員の皆様、どうもありがとうございました。

今日いただきましたご意見を基に、基本構想、基本計画として取りまとめいたしますので、作成できたものにつきましては、また委員の皆様にお目通しいただけるように用意したいと思っております。

それで、来年度ですけれども、作成いたしました構想、計画を基に、基本設計、実施設計と入ってまいりますので、またその際にも、もう少し具体的なご意見をいただきながら作成していきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願ひしたいと思います。

では、これをもちまして令和5年度第4回小牧市文化財保護審議会を閉会させていただきます。どうもありがとうございました。